害は同時に詩人にとつて、無くてはかなはぬ救濟となつたのでした。カントの比喩を用ふれば、鳩は、その飛翔の際に空氣に依つて妨げられますけれども、鳩の飛び得るのは空氣のあるがためなのです。

それ故に、この、若くは他の理由に基いて、現代の戯曲に於ける新しき方向のみが現代に適應してゐるものであり、且つ現代に於て生命を保ち得るものである樣に思はれます。そこで、恐らくイブセンの如き詩人は、畏敬に滿ちた眼で古人の偉大さを眺めた後に、自己固有の天才に基く藝術作品をも、ある種の滿足を以つて、打ち眺めるものなのでせう。

かゝる詩人こそシルレルと共に、次の言葉を物語つても宜からうと思はれます。

„Lieben jreunde, es gab schönre Zeiten
Als die unsern,—das ist nicht zü streiten.....
Doch es ist dahin, es ist verschwunden,
Dieses hochbegünstigte Geschlecht.
Wir, wir leben! Unser sind die Stunden,
und der Lebende hat Recht.“　（完）

〔　〕は譯者の挿入

彙報

六月六日法科第一教室に於いて

春季哲學會大會

中世に於ける印度繪畫の考察……澤村助教授
權威について……藤井（健）教授

寄贈雜誌書籍

哲學雜誌、丁酉倫理講演集、心理研究、觀想、內外教育評論、學校教育、教育時論、顯微、信濃教育、東亞之光、教育學術會、都市教育、生理學研究、國民史語、教育論叢、佛教研究、講座、